

XX特別企画展

古今蓮葉

特別公開 放光寺所蔵
法隆寺金堂壁画模写図

染色作家
古屋絵菜特別企画展

放光寺の寺宝「阿弥陀三尊図（阿弥陀浄土図）」は、法隆寺金堂壁画の現存最古の模写で5月に東京国立博物館で展示を予定しておりましたが、新型コロナウイルスの影響を受け中止となりました。また義定毘沙門天は奈良国立博物館での展示を終え、帰山しました。この度、寺宝特別公開にあわせ「古今蓮葉」というテーマで染色作家の古屋絵菜さんのろうけつ染めの作品展も開催します。



■日時 8月22日（土）～30日（日）午前10時～午後4時

■場所 放光寺（塩山藤木2438） ■拝観料 300円

■主催 放光寺 ■後援 甲州市教育委員会 ※新型コロナウイルスの

感染リスクを十分に配慮し、感染等を防ぐための対策を講じた上で開催いたします。

■お問い合わせ先 放光寺 ☎0553-3213340

高橋山放光寺



「放光寺本堂」

放光寺は元暦元年（1184）源平合戦で功績をたてた安田義定が一ノ谷の戦いの戦勝を記念して創立しています。義定は平家追討の功によって遠江国守に任命されて、のちに遠江国守護、禁裏守護など勤め鎌倉幕府創業に貢献しておりますが建久5年（1194）8月19日梶原氏らの謀反の嫌疑を受け当山において自刃したと伝えています。義定は京都や奥州平泉の平安文化を甲斐に招来することをひそかにおもい、八尺の阿弥陀三尊をはじめ大日如来、愛染明王、不動明王など多くの平安時代の仏像を勧請しました。源頼朝が奈良の南京佛師成朝を鎌倉に招いて勝長寿院鎌倉の仏像を造頭していますが、義定もまた成朝を甲州に招いて甲州仏師原（現武士原）に一大工房をもって放光寺金剛力士像、毘沙門天像をはじめ甲州の仏像を造られたことが、最近になって専門家の調査で分かってきました。

「義定毘沙門天像」



「境内を彩る蓮」



「阿弥陀三尊図（阿弥陀浄土図）」



放光寺の寺宝「阿弥陀三尊図（阿弥陀浄土図）」は、法隆寺金堂壁画の現存最古の模写。

放光寺に羅漢堂を建立したいと発願した真下晩菘が五百羅漢画像二百二十幅をお寺に寄贈しました。これに感動した知恩院管長となる鵜嶋徹定（うがいてつじょう）が五百羅漢堂の本尊としてこの阿弥陀三尊図を寄贈しました。



「八重の桜」（一部）



山梨県生まれ。2011年、武蔵野美術大学工芸工業デザイン科テキスタイル大学院修了。染色作家である母の影響を幼少期から受け、武蔵野美術大学在学時にろうけつ染めを本格的にスタート。現在も主にろうけつ染めを用いて、花をモチーフとした作品を制作・発表している。

2013年にはNHK大河ドラマ『八重の桜』において、5月度のオープニングタイトルバック用に作品を提供。近年は上海でも展示を行い、その活動は日本国内にとどまらない。

染色作家 古屋絵菜